

忍びの里 伊賀・甲賀 (甲賀編)

素材研究
(国内)



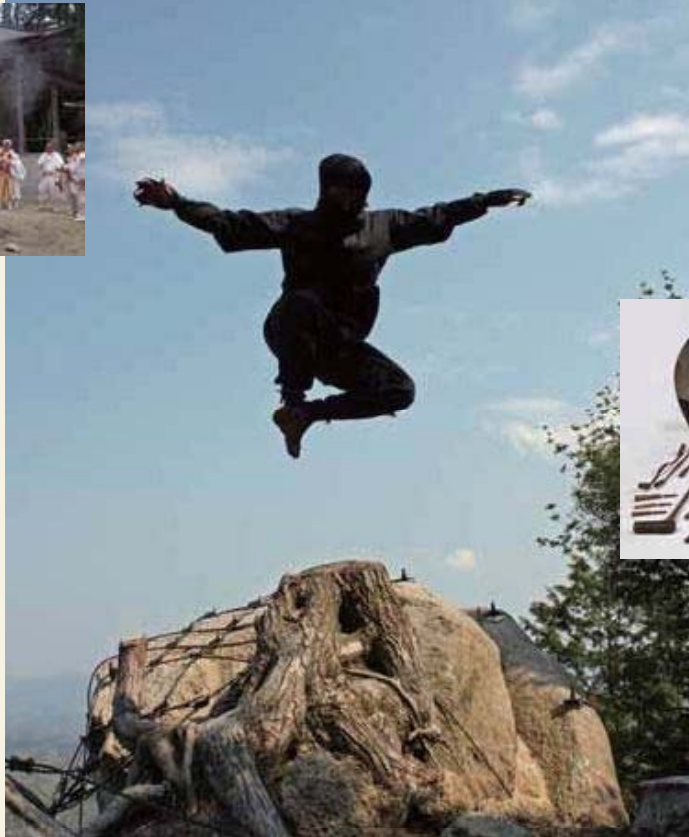
忍者の技術や知恵の源となった山伏による護摩修行



甲賀の総社として甲賀衆結束の中心となった油日神社に伝わる奴振



忍者が薬草を自ら育て加工した薬の資料も残されています



黒装束と身軽なアクションは「Ninja」の象徴です



甲賀忍術博物館建物の一つ



近江甲賀の前挽鑄製造用具と製品



甲賀流の巻物である「忍術應義傳」

リアル忍者の理解深める商品を 発祥地としての本物の魅力を内外に発信

滋賀県甲賀市が三重県伊賀市と共同申請していた「忍びの里 伊賀 申賀 リアル忍者を求めて」は今年4月、文化庁により日本遺産に認定されました。両市は、忍者の発祥地であり、地域独自の観光資源として内外への発信を強化しつつ、その真の姿への理解を深めてもらうことを目指しています。

集大成された地侍たちの生き残り術

映画やテレビ、アニメ、漫画などを通して、国内だけでなくとどまらず、Ninjaは海外にまで広く知られるようになっていきます。イエズス会が編纂した「日葡辞書」に「Xinobi (シノビ)」として記載された忍者は、17世紀初頭には西欧にまで伝えられていました。

滋賀県甲賀地方と三重県伊賀地方は、「甲伊二国」とも言われ、なだらかな丘陵を挟んで南北に隣り合い、京都や奈良に近いだけでなく、東西交通の要衝でもあり、軍事的にも重要な地域でした。しかし、戦国時代に強大な力を持った大名がこの地域からは現れなかったため、自らの地を自らの力で治める自治も発達し、「甲賀衆」「伊賀衆」と呼ばれた地侍たちの生き残るための術が、山岳仏教や山伏の修験道などとも結び付きながら、集大成としての「忍術」として結実していくことになりました。

甲賀市の里山には、今も戦国時代を感じさせる城館が佇み、山中には忍者が修行の場とした山伏の行場や合議を行った鎮守の杜も村々に残されており、忍者の真の姿に思いを馳せることができます。

忍者をキーワードにシティセールス

甲賀市が昨年2月に策定した「甲賀流 まちひとしごと創生総合戦略」では、忍者をキーワードとする観光振興がリーディングプロジェクトに位置づけられており、昨年7月からは「甲賀流シティセールス基本戦略」による「甲賀流忍者の末裔が今なお暮らす本物の忍者のまち」をコンセプトとするシティセールスがスタート。

今年8月に発表された「第2次甲賀市観光振興計画」蘇れ、甲賀流忍者 みんなの力でこのまちに」には、観光地としての魅力を高めるための基本事業として、①忍者の歴史・実態の調査と発信、②忍者の里の雰囲気醸成が盛り込まれたほか、観光誘客のさらなる促進やインバウンド需要の取り込みに向けて、「観光資源として忍者を有効活用している先進地である伊賀市との関係を軸としながら、忍者を観光の目玉としている自治体との観光面での連携強化」という方針も打ち出されました。(次号で「伊賀編」を掲載します)